

9月に接近する台風に備える技術対策

農業技術情報（第3号）

接近する台風によって京都府も大雨・強風となる可能性があります。気象情報に注意して警戒するとともに、以下を参考にして十分な対策を講じてください。

但し、人命第一の観点から、台風通過後のほ場等の見回りにあたっては気象情報を確認するとともに、ほ場周辺の安全に十分注意し、状況が治まってからの作業をお願いします。

暑い日が続いており、向こう1か月の天候の見通し（8月27日大阪管区気象台発表）でも9月の前半は気温が高くなるとの予測です。体調管理には留意して下さい。

1 水稲

(1) 通過前

- ① 既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ等穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。
- ③ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆類

(1) 通過前

- ① 豆類は湿害に弱いので、必ず排水路や排水口等の点検を行い滞水させないようにする。
- ② 大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

- ① 大豆・小豆では、莢が地面に付いていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。
- ② 浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病害虫防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

(1) 通過前

- ① ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

- ② 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
 - ③ 果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。
- (2) 通過後
- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
 - ② 液肥(500~1,000倍)を施用し、草勢の早期回復を図る。
 - ③ 雨による傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。
 - ④ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。

4 果樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- ② 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ③ ハウス(雨よけ含む)では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④ 棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ(傷果防止)。
- ⑤ 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥ 強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種(ナシ、ブドウ等)では、できるだけ収穫する。
- ⑦ 排水対策(明きよ等)をしっかりと行っておく。
- ⑧ 収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。
- ⑨ ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
なお、ナシ・ブドウは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③ 冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- ② 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。

- ③ 被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。
- ④ 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
- ⑤ 製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ④ 性フェロモン剤(交信攪乱剤)を設置した茶園では、剤が地面に落ちたり、切れたりした場合には、拾って再設置する。
- ⑤ 製茶工場が浸水した場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。生葉コンテナ等水洗い出来るものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。

6 作業者の熱中症を防ぐ対策

(1) 作業環境面

- ① 日除けや通風をよくする設備を設置し、作業中は適宜散水する。
- ② スポーツドリンク等でこまめに水分と塩分を補給するとともに、身体を適度に冷やすことができる氷、冷たいおしぼり等を備える。
- ③ 作業中の温湿度の変化がわかるよう、温度計、湿度計等を設置する。
- ④ 日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保する。

(2) 作業面

- ① 十分な休憩時間や作業休止時間を確保する。
- ② 作業服は透湿性、通気性の良いものを、帽子は通気性の良いものを着用する。
- ③ 作業が辛いときは無理をせずに日陰の涼しいところで休憩し、水分を補給して、身体を冷やす。

(3) 健康面

- ① 健康診断結果などにより、健康状態をあらかじめ把握しておく
- ② 作業開始前や、作業中に作業員間で健康状態を観察する。

(4) 救急措置

- ① 近くの病院や診療所の場所を確認しておく。
- ② 熱中症は、早期の措置が大切であり、少しでも異常が見られたら以下の手当を行う。
 - 涼しいところで安静にする。
 - 水やスポーツドリンクで水分を摂る。
 - 体温が高いときは、裸体に近い状態にし、冷水をかけながら扇風機等で風をあてる。また、首、脇の下、足の付け根など太い血管のある部分を氷等で冷やす。
 - 回復しない場合及び症状が重い場合等は、速やかに医師の手当を受ける。